



グリーンクラブだより vol.9



グリーンクラブのみなさま、本年もよろしくお願いたします。

1月は24節気でいうところの小寒（1月5日頃）、大寒（1月20日頃）を迎え、これから寒さが本番になっていきます。

2月17日から3回目の花苗配布が行われます。今回は、補植用になります。2回目に配布したお花が枯れたりして、空いてしまったところに花苗を補っていただき、次の5月配布まできれいな花壇を維持していただきたいと思えます。

2月に入ると立春をすぎ、ぴんと張りつめた空気もとけはじめ、春を少しずつ感じる頃になります。それでもまだまだ寒い時期です。体調に気をつけながら作業しましょう。

○配布のお花について○

今回配布のお花は日当たりを好むものが多いです。一年草として扱うものが多いですが、手入れによっては秋にまた楽しめるものもあります。花がらはこまめに取り除き、水やりは土の表面が乾いたらたっぷりとあたえましょう。

キンセンカ（オレンジ） 花が枯れた後に放っておくとタネが付いて株が弱るので、花がらはこまめに摘むようにします。耐寒性がありますが、寒風や霜に当たると葉先が枯れるので気をつけましょう。詰めて植えると風通しが悪くなって、病気が出やすくなったり、日が十分に当たらず貧弱になるので、十分な間隔をとって植えます。



テージー（赤・白・ピンク） 本来毎年花を咲かせる多年草ですが、日本では花後に暑さで弱ったり枯れることが多く、一年草として扱うのが一般的です。自生地ヨーロッパではごく当たり前に見られる野草で、芝生の雑草扱いです。寒さに強いですが、寒風や霜に注意しましょう。

ムルチコーレ（黄） アルジェリア原産、花後に枯れる一年草です。やや肉厚でへら状の葉を付け、茎はよく枝分かかれして茂ります。草丈はあまり高くなりません。最盛期には何本も花茎を出して、たくさん花を咲かせます。





ノースポール (白) 小さな苗のうち芽先を摘み取ると、下の方から数本の茎が伸びてきてバランスよく茂ります。一株でもよく枝分かれして茂るので、十分な間隔をとって植えます。寒さには強く、霜や寒風で葉が傷むことがありますが、枯れることはありません。

スイートアリッサム (白) 甘い香りを持つ小さな花が密集して咲きます。花が散って茎が間延びしたような感じになったら、花がらを摘み取ります。多年草なので、上手に育てると毎年花を楽しむことができます。コツは、多湿や高温を避け、できるだけ涼しく過ごさせることです。梅雨～夏頃に全体をばっさりと短く刈り込んで、風通しのよい明るい日陰でやや乾燥気味に管理して夏越しさせましょう。



キンギョソウ (混色) 花の姿がひれを広げて泳いでいる金魚に見立ててキンギョソウの名前があります。花房が全部咲き終わったら、花房の下で花茎を取り除きます。花時期が終わる6月頃に枯れた花茎を切り戻すと、涼しくなった秋頃に再び花を付けます。

ペチュニア (混色) 本来は宿根草です。開花時期が長く、花はつぎつぎと咲くので、こまめに花がらをつみましょう。草丈が10cmくらいになったら摘心して枝葉の多い株に育て、花つきをよくします。高温多湿の気候に弱いので、夏に花が少なくなってきたら、全体の1/3～1/4を残して切り戻しましょう。



研修会を企画しました。
同封の案内をご確認いただき、みなさんお誘い合わせの上、ご参加ください。

ご意見・お問い合わせは
お気軽にどうぞ
目黒区みどりと公園課利用係
Tel: 5722 - 9242 Fax: 3792 - 2112
Email: midori06@city.meguro.tokyo.jp

